

E-Post Mail Server Enterprise・E-Post SMTP Server Enterprise シリーズ カスペルスキーアンチウイルスエンジン（SDK Ver.8） アップデートプログラム適用のお願いと方法について

2010.06.30

E-Post Mail Server Enterprise
E-Post SMTP Server Enterprise

シリーズのユーザー様各位

現在、ご利用中の E-Post Mail Server Enterprise・E-Post SMTP Server Enterprise シリーズに対して、カスペルスキーアンチウイルスエンジン（SDK Ver.8）アップデートプログラムの適用についてのご案内を申し上げます。

1. アップデートプログラムの2010年内の適用作業をお願いします

カスペルスキーアンチウイルスエンジン（SDK Ver.8）アップデートプログラムの適用によって、E-Post Mail Server Enterprise・E-Post SMTP Server Enterprise シリーズに実装している「アンチウイルス機能」が SDK Ver.7 から SDK Ver.8 へと変更されます。

上記 Enterprise 版シリーズをご利用中のユーザー様は、アップデートプログラムの適用は2010年12月末までに必ず行ってください。理由は、次の2をご覧ください。また、変更しなかった場合にどのような状態になるのかは、4をご覧ください。

2. アンチウイルスエンジンが SDK Ver.7 から SDK Ver.8 へ変更されます

現在、Enterprise シリーズに搭載されているアンチウイルス機能は、カスペルスキー社から提供されているライブラリ SDK Ver.7 を使用していますが、Ver.7 が利用しているパターンファイルのデータベース更新は2010年12月末までと、告知されております。

そのため、アンチウイルスエンジンについて、SDK Ver.7 から SDK Ver.8 を利用したエンジンに変更する作業を施しました。今回提供されるアップデートプログラムをユーザー様が適用することによって、SDK Ver.8 を利用したエンジンに差し替わります。

3. アンチウイルスの基本機能・性能は変わりません

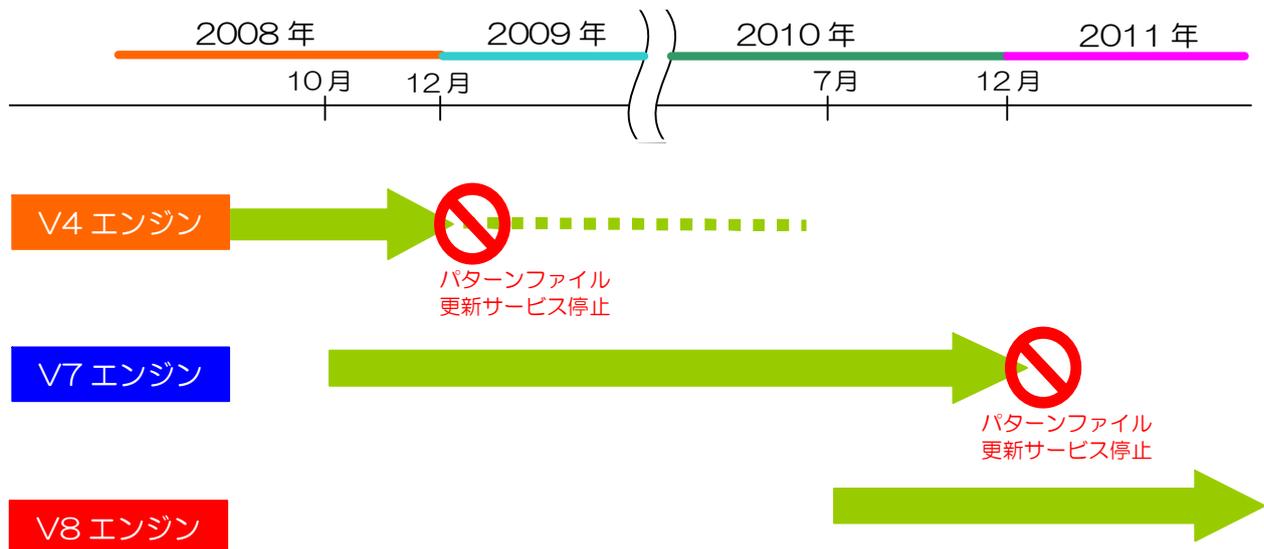
アンチウイルスの基本機能は Ver.7 時代と比べて特に変わりません。ウイルススキャンの仕組みや性能、メモリ消費量、ウイルスパターンファイルのダウンロードサイト、パターンファイルをダウンロードするフォルダ、ダウンロード記録ログの内容など、従来と変更点はありません。（※1）（※2）

4. Ver.7 用のパターンファイル更新は2010年12月末までです

カスペルスキー社提供のウイルスパターンファイルダウンロードサイトについては、Ver.7 のアンチウイルスエンジンを利用した現行版では、2010年12月末まで更新が保証されていますが、それ以降は保証されなくなります。そのため、できるだけ早めにアップデートプログラムを適用くださるようお願い申し上げます。

万が一、Ver.7 エンジンが組み込まれた現行の E-Post Mail Server Enterprise・E-Post SMTP Server Enterprise シリーズを、期限である 2010 年 12 月末を過ぎても、利用を続けた場合、2011 年 1 月以降でのパターンファイル更新が保証されません。できるだけ早い時期にアップデートプログラムを適用してくださるようお願い申し上げます。

なお、新しい SDK Ver.8 を利用したパターンファイルの更新についての有効期限は、今は未定であるとカスペルスキー社に問い合わせ確認しております。弊社としては、ユーザー様の利便を考え、最低 2 年間は継続してほしい旨、要望として提出しています。



5. ライセンスキーはそのまま利用可能

Enterprise 版の次年度更新時期に入力・登録していただいているライセンスキーですが、今回のアップデートのために特別に入力していただく必要はありません。登録されているライセンスキーはそのままお使いいただけます。

(※1) SDK Ver.8 用のダウンロードサイトは、Ver.7 のときと変わらず、次の通りです。ただし、カスペルスキー社が将来的に変更しないことを保証しているものではありません。また、ダウンロードサイトは予告なしに変更されることがあります。

dnl-00.geo.kaspersky.com

:

dnl-19.geo.kaspersky.com (連番部分 00-19 のうち、20 カ所からランダムに選択)

(※2) パターンファイルのダウンロード時に、利用するフォルダについても、Ver.7 のときと変わらず、次の通りです。

[プログラムインストールフォルダ] ¥Bases

カスペルスキーアンチウイルスエンジン（SDK Ver.8） アップデートプログラム適用方法

カスペルスキーアンチウイルスエンジン（SDK Ver.8）アップデートプログラム適用方法は、以下の通りです。従来の差分アップデートプログラムの適用方法とほぼ同等です。

なお、手順の中では、“EPSTRS”、“VMCS”サービスを停止していただく必要がありますが、あらかじめアップデートプログラムを手元に用意しておくことで、サービス停止時間は1～2分程度と最小限にとどめられます。

（注1）アンチウイルス機能を実装していない、E-Post Mail Server Standard/E-Post SMTP Server Standard シリーズのいわゆる Standard 製品には、このアップデートプログラムを適用しないでください。

（注2）アンチウイルスエンジン（SDK Ver.8）アップデートプログラムは、Ver.7 のアンチウイルスエンジンを利用した現行版からの適用はもちろんのこと、それより前の Ver.4 時代のアンチウイルスエンジンを利用していたバージョンからの適用を行っても、問題はありません。

Ver.7 → Ver.8 ○

Ver.4 → Ver.8 ○

ただし、ライセンスキーのもつ有効期限が切れてしまっているときには、ソフトウェア的にバージョンが上がったとしても、パターンファイルのダウンロード自体ができるようになるわけではありません。

（アンチウイルスエンジン（SDK Ver.8）アップデートプログラム適用方法—E-Post Mail Server Enterprise/E-Post SMTP Server Enterprise シリーズ）

(1). “E-POST Mail Control”画面を開き、[サービス制御] タブにある“EPSTRS”、“VMCS”サービスを停止。

※“EPSTDS”サービスはあえて停止する必要はありません。また、E-Post Mail Server シリーズには、“EPSTPOP3S”、“EPSTIMAP4S”サービスが実装されていますが、それらも停止する必要はありません。

(2). “E-POST Mail Control”および“E-POST Account Manager”を閉じる。

(3). ダウンロードした zip ファイル “Vengine3-8.0.1.26-Q.zip” を解凍し、アップデートプログラム “E-POST Virus Engine Changer SDK8.msi” を実行。

(4). インストール済みのドライブ・フォルダを事前に確認しておき、上書き更新されるように、インストール先フォルダを指定して実行。

※インストールフォルダは、デフォルトで「C:\Program Files\EPOST\MS」です。インストール先を変更しているときは、正しいフォルダを指定してください。

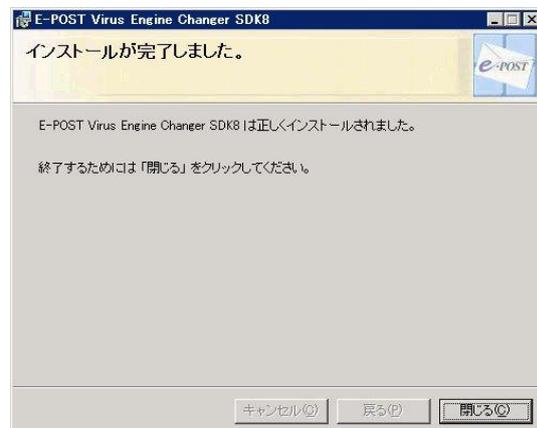
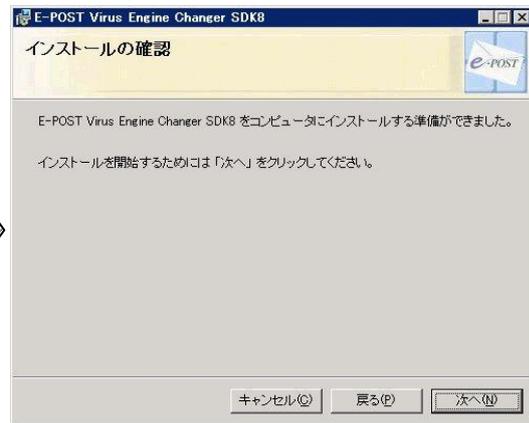
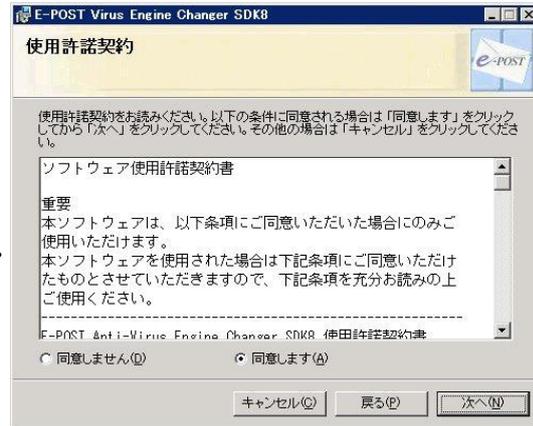
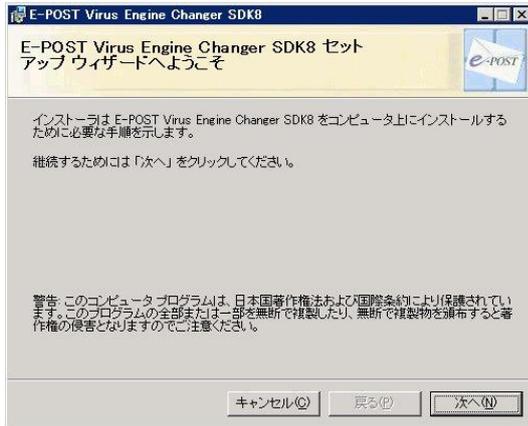
(5). “E-POST Mail Control”を開き、停止したサービスを再開する。

(6). 5 ページ以降に記載されている方法でバージョンを確認する。

※今回のアップデート適用をしても、[バージョン情報] タブに表示されるバージョン表記は変わりません。

クラスタ構成の場合は、アクティブ側・スタンバイ側それぞれ(1)～(6)の操作を行います。

前ページの手順(4)での操作画面を掲載します。

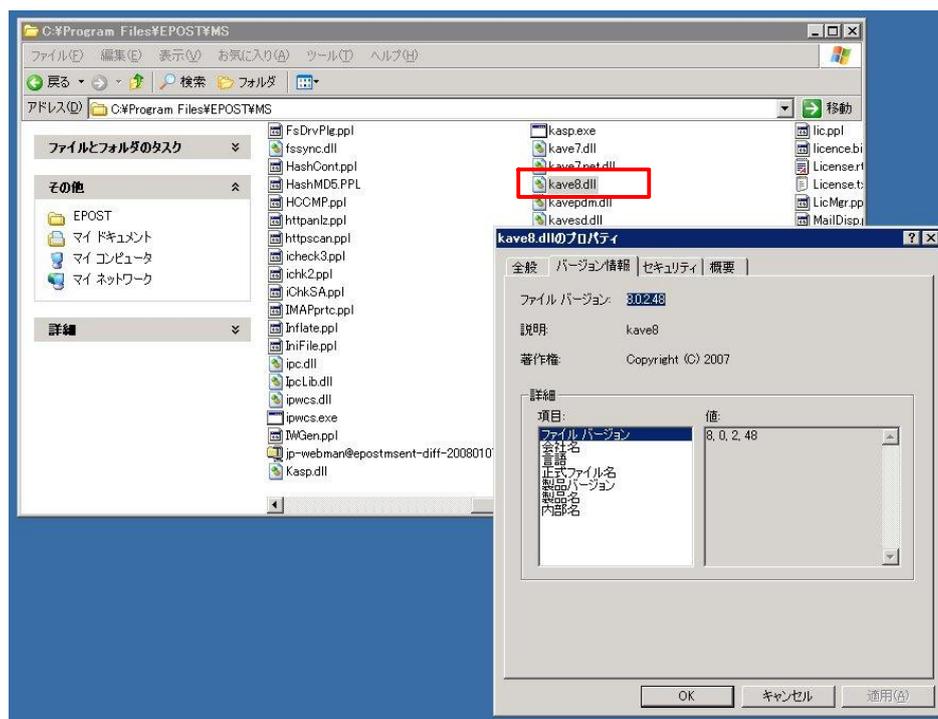


アップデートプログラム適用後の動作確認

アップデート適用を行った後は、「バージョン情報」タブ画面でのバージョン表記は変わりませんので、画面からでは確認できません。ただし、下記の通り、細かい点で違いが確認できますので、問題なく SDK Ver.8 へのアップデートが適用されたかどうかを確認する方法として紹介します。

(SDK Ver.8 適用により Ver.7 と異なる部分について)

1. [プログラムインストールフォルダ] (C:\Program Files\EPOST\MS) 内に"kave8.dll"が存在するようになります。"kave8.dll"は、SDK Ver.8 用の典型的な.dll ファイルです。



2. パターンファイルダウンロード時に動作するプログラム”autoupdate.exe”のバージョン表記が 3.01 になります。従来は 2.10。コマンドプロンプトを開き、[プログラムインストールフォルダ (既定値が C:\Program Files\EPOST\MS)] に移動した後、コマンドラインから”autoupdate”を単独で実行すると、引数なしではエラーとなりますが、そのとき 3.01 のバージョン表示がされます。

```

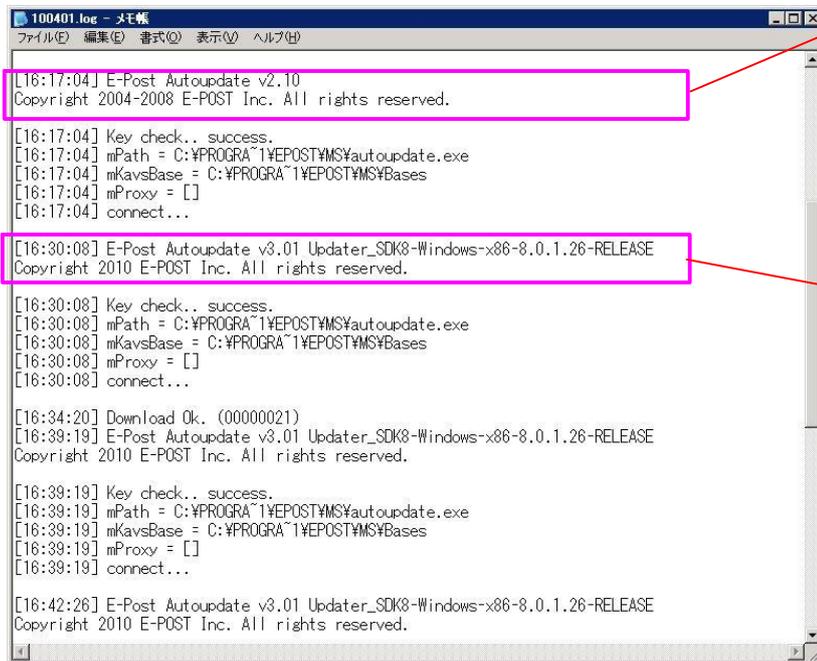
C:\Program Files\EPOST\MS>autoupdate
E-Post Autoupdate v3.01 Updater_SDK8-Windows-x86-8.0.1.26-RELEASE
Copyright 2010 E-POST Inc. All rights reserved.

Key check.. fail.

C:\Program Files\EPOST\MS>
  
```

3. “autoupdate.exe” のバージョン 3.01 は、パターンファイルダウンロード記録ログからも確認できます。パターンファイルダウンロード記録は、従来通り、[プログラムインストールフォルダ（既定値が C:\Program Files\EPOST\MS）] \log に保管されます。

（従来バージョン・新バージョンが確認できる記録ログ）



```

[16:17:04] E-Post Autoupdate v2.10
Copyright 2004-2008 E-POST Inc. All rights reserved.

[16:17:04] Key check.. success.
[16:17:04] mPath = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS\autoupdate.exe
[16:17:04] mKavsBase = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS%Bases
[16:17:04] mProxy = []
[16:17:04] connect...

[16:30:08] E-Post Autoupdate v3.01 Updater_SDK8-Windows-x86-8.0.1.26-RELEASE
Copyright 2010 E-POST Inc. All rights reserved.

[16:30:08] Key check.. success.
[16:30:08] mPath = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS\autoupdate.exe
[16:30:08] mKavsBase = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS%Bases
[16:30:08] mProxy = []
[16:30:08] connect...

[16:34:20] Download Ok. (00000021)
[16:39:19] E-Post Autoupdate v3.01 Updater_SDK8-Windows-x86-8.0.1.26-RELEASE
Copyright 2010 E-POST Inc. All rights reserved.

[16:39:19] Key check.. success.
[16:39:19] mPath = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS\autoupdate.exe
[16:39:19] mKavsBase = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS%Bases
[16:39:19] mProxy = []
[16:39:19] connect...

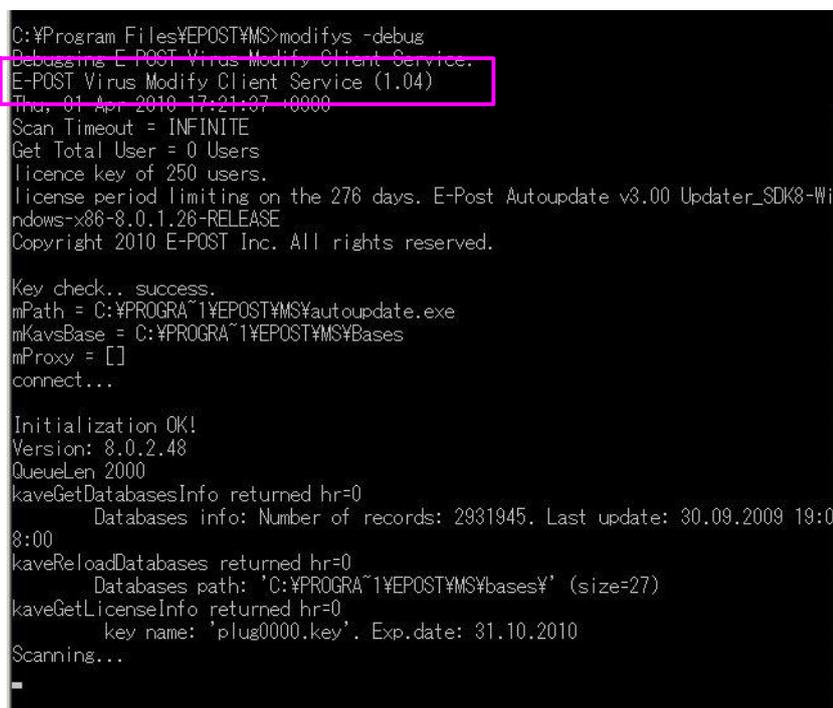
[16:42:26] E-Post Autoupdate v3.01 Updater_SDK8-Windows-x86-8.0.1.26-RELEASE
Copyright 2010 E-POST Inc. All rights reserved.

```

Ver.7 まで
autoupdate は
2.10

Ver.8 アップデ
ート後は
autoupdate は
3.01

4. VMCS サービスプログラム modifyfs.exe をデバッグモードで確認すると、“1.04”のバージョン表示がされます。デバッグモードで確認するときは、事前に VMCS サービスを停止してください。VMCS をデバッグモードで起動するには、コマンドプロンプトを開き、[プログラムインストールフォルダ（既定値が C:\Program Files\EPOST\MS）] に移動した後、コマンドラインから” modifyfs -debug”を実行します。《Ctrl》+[C]キーで停止できます。



```

C:\Program Files\EPOST\MS>modifyfs -debug
Debugging E-POST Virus Modify Client Service.
E-POST Virus Modify Client Service (1.04)
Thu, 01 Apr 2010 17:21:07 +0000
Scan Timeout = INFINITE
Get Total User = 0 Users
Licence key of 250 users.
License period limiting on the 276 days. E-Post Autoupdate v3.00 Updater_SDK8-Wi
ndows-x86-8.0.1.26-RELEASE
Copyright 2010 E-POST Inc. All rights reserved.

Key check.. success.
mPath = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS\autoupdate.exe
mKavsBase = C:\PROGRAM~1\EPOST\MS%Bases
mProxy = []
connect...

Initialization OK!
Version: 8.0.2.48
QueueLen 2000
kaveGetDatabasesInfo returned hr=0
Databases info: Number of records: 2931945. Last update: 30.09.2009 19:0
8:00
kaveReloadDatabases returned hr=0
Databases path: 'C:\PROGRAM~1\EPOST\MS\bases%' (size=27)
kaveGetLicenseInfo returned hr=0
key name: 'plug0000.key', Exp.date: 31.10.2010
Scanning...

```

(SDK Ver.8 適用後でも Ver.7 と同じ確認内容について)

5. ウイルスチェックのテストは、コマンドプロンプトを開き、カレントフォルダを「プログラムインストールフォルダ」に移動してから、次のように、”kasp arj.ppl”と入力して行います(※)。最後に表示された “nResult=1” のコード番号「1」は、ウイルススキャンが正常に行われた結果、「ウイルスが見つからなかった」ことを意味します。

```
C:\Program Files\EPOST\MS > kasp arj.ppl

[arj] argv[1] = arj.ppl
[arj] Source = arj.ppl
[arj] Start Virus scan.
[arj] End Virus scan. (arj.ppl, )
[arj] nResult = 1 ()
```

- (※) Windows Server 2008、Windows Vista の環境では、「コマンドプロンプト」を必ず「管理者として実行する」必要があります。管理者としてコマンドプロンプトを開いていない場合、kasp プログラムを実行するとパイプエラーの表示がされますので注意してください。

6. タスクマネージャを起動し、「全ユーザーのプロセスを表示する」状態にすると、SDK Ver.7 でも存在した”epostavs.exe” というプログラムが稼働していることを確認できます。この ”epostavs.exe” は、サービスプログラムではなく、パターンファイル更新のサービスプログラムである VMCS (“modifyfs.exe”) の従属プログラムとして動作しているものです。



7. ダウンロードされたパターンファイルは、[プログラムインストールフォルダ（既定値が C:\Program Files\EPOST\MS\Bases）] \Bases に格納されます。なお、このフォルダに格納されているパターンファイルはたとえ古いものがあったても、削除したりしないでください。

